



地震ハザードマップを作成

地震では、建物の構造、建築年代

対策及び放射性物質事故や大規模断水などの大規模事故対策も策定した素案を決定していただきました。その後、パブリック・コメントにより、広く市民の皆さんの意見を募集し、8月に開催した4回目の会議において新たな地域防災計画を策定していただきました。今後は、この計画に基づき、災害に備えます。

や耐震化対策、宅地の地層などの地形分類、震度によって被害状況が大きく変わります。

市では、各家庭で大規模地震に対する意識の向上を目的に、「地震ハザードマップ」を作成しました。ハザードマップは、下表のとおり「地域危険度マップ」「液状化危険度マップ」「揺れやすさマップ」の3つの地図で構成されていますので、自宅などの地震対策に活用してください。なお、地震ハザードマップは、全戸に配布する予定です。

| 種類 | 表示内容 | 使い方 |
|-----------|---|---------------------------------------|
| 地域危険度マップ | 住宅の建築年代や構造による危険度を表示 | 建物の被害予測を確認し、建物の耐震化や家具の転倒防止策など必要な対策をとる |
| 液状化危険度マップ | ローム台地などの地形分類により液状化の危険度を表示 | 土地を利用する際に確認し、必要な対策として地盤調査や地盤改良を行う |
| 揺れやすさマップ | 地域防災計画の想定地震の野田隆起帯による地震に、野田市に大きな影響が考えられる東京湾北部地震、茨城県南部地震及び野田直下での地震を重ね、それぞれ地域ごとに最も大きな震度を表示 | 震度ごとの具体的な状況を示した表を参照し、各家庭での備えを確認する |

Interview

私の場合は、阪神・淡路大震災を息子が経験した事をきっかけに、当時から震災に備えて日ごろからの備蓄を心がけています。消耗品、特に食料品は、定期的に入れ替えなくてはならないので、全て準備するのは大変かもしれませんが、各家庭で、何日間かなんとかできるように日ごろから備蓄を意識することが必要です。東日本大震災以降、私の周りの人たちの間でも、以前より備蓄に対する意識は高まっていると思いますが、まだまだ意識が浸透していないように感じています。

さらに、自分たちのものだけでなく、困ったときは皆が助け合いの気持ちを忘れずに、多めに備蓄しておくことが大事だと感じています。

野田市防災会議委員 南部 富枝さん

